

宮崎県におけるシイタケ害菌（シトネタケ，ニマイガワ等） の被害調査について（Ⅳ）

宮崎県林業試験場 近藤 一稔
川越 頼光
植野 泰久

1. はじめに

シトネタケ，ニマイガワ等シイタケ害菌の被害調査については，昭和56年度から着手している。初年度は，本県の東臼杵農林振興局東部普及指導区管内，第2年度は，同局西部普及指導区管内，第3年度は，西臼杵支庁普及指導区管内について調査を実施し，その結果は，第Ⅰ報～第Ⅲ報として報告した。

昭和59年度は，児湯農林振興局普及指導区管内について，同調査を実施したので，その結果を報告する。

なお，この調査の実施に際し，児湯農林振興局林務課，岩切普及係長，山口主査，緒方主査，浜砂主任技師，茶木主任技師，藤丸技師，林業振興課日高特別専門技術員にご協力いただいたことに対し，厚くお礼を申し上げます。

2. 調査内容

(1) 調査地区および調査カ所数

宮崎県児湯農林振興局普及指導区管内（図-1）
A区：西米良村，13カ所，B区：西都市，5カ所，C区：木城町，4カ所，D区：都農町，2カ所。合計24カ所の調査地を選定し，各調査カ所内において平均的な環境にあると思われる伏込みを1カ所選び，50本を抽出して調査木とした。（表-1）

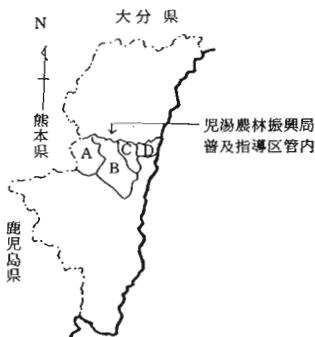


図-1 昭和59年度害菌被害調査地

(2) 調査の方法

被害率の調査は，原木の表皮が剥離されて露出した害菌子座面積が，原木表面積に対して占める割合を肉眼で判定し，調査地区別，原木の径級別の被害本数率および被害蔓延率を求めた。

害菌の被害との関係については，1) 原木の生育および伏込み環境，2) 原木の樹齡と乾燥度，3) 伏込み，4) 管理等の調査を実施した。

(3) 調査期間

昭和59年11月26日から同月28日まで

3. 結果

(1) 調査地区別の調査木本数およびその径級別内訳は，表-1のとおりで，比較的小径木の占める割合が高かった。

表-1 調査カ所別調査本数

調査地区	調査カ所数	調査本数	径級別内訳		
			小径木 (7cm以下)	中径木 (8～12cm)	大径木 (13cm以上)
A	13	650	371	217	62
B	5	250	154	72	24
C	4	200	138	59	3
D	2	100	82	10	8
計	24	1,200	745	358	97

(2) 調査地区別被害率

1) シトネタケ：被害本数率は，A区14.31%，B区24.80%，C区21.50%，D区57.00%で，特にD区が高かった。（図-2）

次に，被害蔓延率では，A区0.95%，B区2.08%
C区2.27%，D区5.29%，D区がやゝ高かった。

2) ニマイガワ：被害本数率は，A区0.92%，B区

Kazutoshi KONDO, Yorimitsu KAWAGOE and Yasuhisa UENO (Miyazaki Pref. Forest Exp. Stn., Miyazaki 880-21)

Damage caused by *Diatrype stigma* and *Graphostoma platystoma* on the bed logs of Shiitake (*Lentinus edodes*) in Miyazaki Prefecture (Ⅳ)

0.80%, C区3.00%, D区2.00%で、4調査区とも軽微であった。(図-2)

次に、被害蔓延率では、A区0.08%, B区0.08%, C区0.68%, D区0.30%で、4調査区とも軽微であった。(図-2)

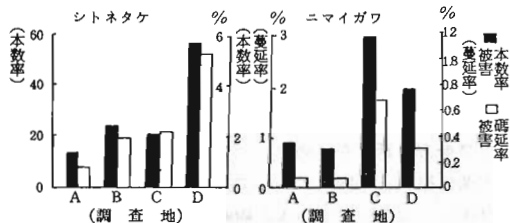


図-2 調査地区別害菌被害

(3) 原木の径級別被害率

1) シトネタケ：被害本数率は、小径木 26.98%, 中径木 14.25%, 大径木 3.09%で大径木が比較的低い被害率であった。(図-3)

次に、被害蔓延率では、小径木 2.29%, 中径木 1.12%, 大径木 0.19%で軽微であったが、被害本数率と同様な被害傾向がみられた。(図-3)

2) ニマイガワ：被害本数率では、小径木 1.48%, 中径木 1.40%, 大径木 0%。被害蔓延率では、小径木 0.27%, 中径木 0.10%, 大径木 0%で、本数率、蔓延率いずれも軽微であった。(図-3)

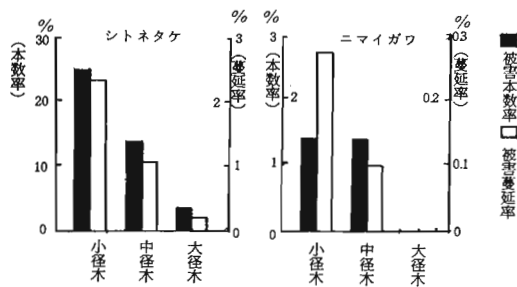


図-3 原木の径級別被害

(4) 害菌被害関連要因の調査

1) 原木の生育地および伏込み地の環境と被害

生育地および伏込み地の位置、方位、標高、傾斜、土壌型、通風、乾湿等と被害の関連性については、判然としなかった。

ただし、伏込み方法との関連性については、調査カ

所に対する被害カ所数の百分率でみると、シトネタケでは、野伏せの方が林内伏せに比較して、やや高かったが、ニマイガワでは、大差がなかった。

2) 原木の樹齡および乾燥度と被害

樹齡および乾燥度と被害との関連性は、判然としなかった。

3) 原木の作業工程、伏込み、管理等と被害

作業工程と被害との関連性は、判然としなかった。次に、伏込み型、伏込みの高さ、伏込み密度、伏込み管理等と被害との関連性についても、判然としなかったが、伏込み原木の位置では、両害菌とも枕木よりも足木の方が被害率が高い傾向を示した。(図-4)

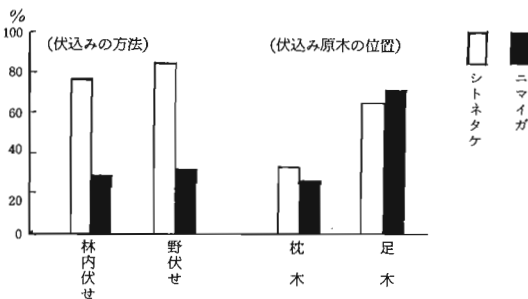


図-4 原木の伏込み条件と被害

4. 考 察

以上の結果が示すとおり、西米良村、西都市、木城町いづれの調査地区においても、被害蔓延率は、両害菌ともそれほど高くなかった。

しかし、被害本数率では、シトネタケが平均 21.25%と比較的高く、かなりの原木が本害菌の被害を受けていることが把握できた。

なお、ニマイガワの被害本数率は、軽微であった。また、両害菌の径級別被害率については、前回までの調査結果と同様に、小径木が高く、伏込みでは、野伏せが多いことから、原木の乾燥し過ぎが、シトネタケの被害発生誘因の一つと考える。

なお、その他の関連要因に関しては、被害との関連性が判然としないものが多かったが、このことは、本害菌が環境に対する適応性の強いことの現われと考える。